

チャレンジャーズ・ライブ 審査の理念と実際

チャレンジャーズ・ライブは日本クローズアップマジシャンズ協会（JCMA/Japan Close-up Magicians' Association）が、藤本明義（ふじもとあきよし）氏の提唱により、2000年から開催しているコンテストです。観客の前できちんと演技ができるように、若手マジシャンを「教育」しようという目的で行って来ました。当初は「若手育成コンテスト」という名称でしたが、その後、田代茂が「チャレンジャーズライブ」と改名しました。2022年には、JCMAがNMFの下部組織に編入されたため、以降は、チャレンジャーズ・ライブはクローズアップ部門だけでなく、ステージ部門でも開催されるようになりました。

本コンテストの目的は、「プロを育てる」ことでもなく、「国際コンテストで優勝するマジシャンを発掘する」ことでもありません。本コンテストの目的は、一般のお客様が、楽しめる（場合によっては感動できる）マジックが演じられるように、コンテストとその後のフィードバックを通じて、コンテスト1人ひとりにチャンスとヒントを与えることです。

チャレンジャーズ・ライブの審査用紙は、JCMA/NMFオリジナルのものを使用しています（別紙）。審査員の皆様には、以下の「理念」と「実際」をご理解の上、審査を行っていただけますよう、よろしくお願い致します。

一般社団法人 日本マジックファンデーション（NMF/Nippon Magic Foundation）
会長 田代 茂

理念

①完璧な審査員が存在するとしたら、審査員は1名でよい。

マジックの分野は広く、1人の審査員が全ての演技を完璧に審査できるわけではありません。従って、審査員は多ければ多いほどよいこととなります。しかし、物理的な制約があり、また毎回同じ人数の審査員で審査を行うために、審査員は5名と致します。

審査員は、マジックに造詣が深い方をお願いします。「マジックは一般のお客さんにウケルのが一番よいマジックだ」という考え方は取りません。大衆迎合のマジックではなく、文化・芸術性の高いマジックを求めているからです。

②個々の審査員が絶対評価を行い、それを集約する。

マジックの表現をどう受け止めるかは、受け止める人によって様々です。たとえば「不思議さ」を全く感じなかった（0点）審査員が4人おられたとしても、5人目の審査員が、不思議であった（たとえば30点万点中15点を与えた）と感じたのであれば、審査における「不思議さ」の項目は、150点中15点の得点であったと、コンテストには説明します。（コンテストには別紙のような成績表が個別に配布されます。）

このような評価は、他のコンテストと比較しての点数ではなく、各審査員が個々の基準に従って与える点数であり（相対評価ではなく絶対評価）、各コンテストに示唆を

与えるものと考えます。

③合理的な評点を求める。

本審査用紙の特色は、**評価の各項目について、「よい（○）」、「普通（△）」、「悪い（×）」の3段階で評価する**という点です。例えば、ある項目の得点が30点満点である場合、審査を行う中で「13点」と「14点」、あるいは「27点」と「28点」の違いについて、合理的に説明することはきわめて困難です。あるコンテストと別のコンテストを比較して、相対的にこちらのコンテストが11点で、あちらのコンテストが12点です、という具合に点数を決めることは可能ですが、JCMA/NMFのコンテストでは、コンテスト同士を比較することは行いません。**絶対評価を行います**。合理的な絶対評価を行う場合、「よい（○）」、「普通（△）」、「悪い（×）」の3段階で評価するのであれば、適切な評価が期待できると考えています。

ただし、「よい（○）」、「普通（△）」、「悪い（×）」の3段階では、あまりに大雑把過ぎるのではないかと考えます。そこで「よい（○）」、「普通（△）」、「悪い（×）」のそれぞれを3つの段階に区分することとしました。「よい（○）」の中でも特に高く評価する場合は「+（プラス）」、あまり高く評価しない場合は「-（マイナス）」、そのいずれでもない場合は「0（ゼロ）」とします。つまり、「まあよい（○・マイナス）」、「よい（○・ゼロ）」、「特によい（○・プラス）」の3段階に分けて戴くこととなります。

従って、各項目を9段階で評価を行うこととなります。審査員の先生方は、審査用の「アミカケ部分（薄く黒くなっている部分）」の「- 0 +」の部分にチェックを入れて戴きます。例えば、「△」の下の「+」にチェックを入れる（あるいはそれを○で囲む）、ということで審査を進めて戴きます。

実際

評価項目は6つあります。それぞれの項目はその重要度によって、満点が異なっています（傾斜配点）。これも本審査用紙の特徴です。

まず「マジックの本質」として「**不思議であったか？**」、「**おもしろかったか？**」について評価して戴きます。

次に「専門性」として、「**独自性**」と「**知識・技術**」を評価して戴きます。たとえばダブル・リフトをすべきところを両面テープで解決していると思われれば（つまり技法臭がない場合は）、「知識・技術」点は高く評価してください。（技術はないかもしれないが、知識により技法臭を消したから。あるいは本当にダブル・リフトを行ったのかもしれないが、だとすれば技術点が高いことになるから。）明らかに「ワン・ウェイ」を用いてフォーースを行った場合で、そこに不自然さがあれば（デッキをあらためないなど）、それは知識が足りないか、他のフォーースを行う技術がないのですから、「知識・技術」点は低く評価してください。難易度の高い技法を行ったとしても、そこに技法臭があれば、「知識・技術」点は低く評価してください。

最後にパフォーマンスとして評価を行って戴きます。**演者自身**についての印象と、**演技を構成するモノ**（用具、衣装、音楽、等）について評価してください。

尚、コンテスト終了後、フィード・バック・セッションで、審査員の先生方から、それぞれの演技につきまして、御所見を開陳して戴きます。各演技のよかった点、悪かった点につきまして、2分程度お話戴ければ幸いです。